

第1回 小諸市学校再編計画検討懇話会 会議録

令和4年9月29日（木）開催

開催日時 令和4年9月29日(木) 18:30 ~ 20:00

開催場所 小諸市役所 第1、2会議室

出席構成員 川原田雅夫 小松 幸夫 塚田 直道 鹿取 俊彦
清水 信 南澤奈々絵 高橋 拓哉 神津 昌也
依田 勝彦 相原 良男 中澤 隆治 栗林 正直
小山 里恵 山田 雄司 以上14名
(欠席 : 新津伸太郎 以上1名)

WEB参加 株式会社 ファインコラボレート研究所
株式会社 BTM

事務局 教 育 長 山下千鶴子 総 務 部 長 柳澤 学
教 育 次 長 富岡 昭吾 財 政 課 長 土屋 雅志
学校教育課長 黒岩 孝幸 マネジメント推進係長 吉澤 一男
教育総務係長 小林 喜明 学校教育係長 高瀬 龍二
事 務 主 任 瀧川 宜隆 事 務 主 任 竹内 彩
指 導 主 事 矢嶋 真 指 導 主 事 柳澤 博

1 開会

〈進行：学校教育課長〉

2 委嘱書の交付

〈出席構成員へ委嘱書交付〉

3 教育長あいさつ

(教育長)

皆様、改めましてこんばんは。

本日はお忙しい中、またお仕事でお疲れのところご出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は教育長の山下千鶴子と申します。よろしく願いいたします。

ただいま委嘱書を交付させていただきました。

それでは、本懇話会の開催にあたりご挨拶をさせていただきます。

小中学校の再編計画にかかる取り組みがスタートしまして、早6年になります。

少子化の波により市内6小学校の児童数が年々減少することが試算されており、また、ICT化にも拍車がかかり、学校も1人1台端末を導入する時代となりました。

学校教育も変革のときを迎えております。

近い将来を担う小諸に生きる子どもたちの学びはどうあったらいいのか。学校再編が待たれる今、現状の課題に向き合い、皆で考えあう場を設けたい。そんな思いで、本懇話会を設置し、本日第1回目の懇話会開催の運びとなりました。

本懇話会は、来年の3月まで、月1回もしくは2回開催し、先進校見学も含めて全部で9回を予定しており、再編計画案の策定を目指していきたいと考えております。

令和5年度に入りましたら、市民説明会、パブリックコメントを経て、教育委員会にて決定し、再編計画の策定が完了いたします。

なお、初回から3回まではこれまでの経緯や教育について共有する場を持ち、その後、具体的な協議に入らせていただきます。お手元の名簿にございます市民の皆様、各団体の代表の皆様、有識者の皆様のそれぞれのお立場から、ご意見をいただきたいと考えております。

組織を代表してご参加いただいている方には、懇話会の内容を持ち帰っていただいて、意見集約等をしていただきますれば幸いに存じます。

皆様からいただいた様々なご意見を取り入れながら、学校再編計画案を策定してまいりたいと考えております。

本日はこの後、学校再編に関わって検討を重ねてまいりました経過の詳細を事務局より申し上げます。

また、学校施設は小諸市の公共施設の一つでもあります。そこで事務局には、教育委員会に加えて、市長部局の職員も入り、公共施設の考え方、総量の見直しや、適正

規模、適正配置等あわせて検討していくこととなります。この点についても後ほど説明させていただきます。

説明の後、本日お集まりの皆様のご意見、ご感想をお聞かせいただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、小諸に生きる子どもたちにとって、1日も早く安全安心で最適な学習環境、学習ニーズにこたえられる、多様な学びが保障される学校作りを目指すべく、皆様のお力をお借りします。

どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、挨拶といたします。

4 自己紹介

〈構成員自己紹介〉

〈事務局自己紹介〉

〈Web参加者事務局紹介〉

5 会長、副会長互選

〈構成員が会長に川原田雅夫氏、副会長に相原良男氏を推薦〉

〈拍手多数により承認後、就任あいさつ〉

(会長)

小諸市の児童生徒のよりよい成長のために、今ある小学校、中学校の将来の望ましい姿とはどのようなのか、という大変大きな課題について話し合うという重要な会議であります。その会長にただいま指名されまして、内心困ったなという思いであります。構成員の皆様の忌憚のないご意見をいただき、一歩でも進めていくことができればと思います。よろしくよろしくお願いいたします。

(副会長)

改めまして相原でございます。ただいま、副会長という大役を仰せつかりました。微力ではございますが、会長を補佐していきたいと思えます。私は以前やっていた審議会から出ていまして、答申書を作った経過がありますので、できればその基本方針に沿ってこれから会議を進められればよいと思っております。一番は子どもたちが、学ぶ場を維持していくということが大事だと思います。この会が始まったのは子どもの数が減っていくという一番基本のところがあったと思えますけれども、私は小諸東中エリア代表ということで来ており、また、地域の代表ということで意見をさせていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは学校再編計画が策定されるまでよろしくお願い申し上げます。本日の懇話会でございますが、懇話会要綱第6条第2項で、懇話会は会長が招集し、会長が議長となる。同条第2項で、懇話会は構成員の過半数以上が出席しなければ会議

を開くことができないと規定しており、本日、構成員 15 名中 14 名のご出席をいただいておりますので、懇話会成立要件を満たしていることを報告いたします。ここからの進行でございますが、川原田会長にお願いしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(会長)

協議事項につきまして進行したいと思っております。不慣れではございますが、スムーズな進行を心がけてまいりますので、皆様のご協力をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。協議に入る前に 2 点ほどお願ひ申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の第 7 波が落ち着いてきたとはいえ、感染予防が必要な状況であります。そのため、会議時間は必要最低限とし、おおむね午後 8 時には終了させていただきます。次に先ほど教育長の挨拶にもありましたとおり、本懇話会は学校再編計画策定のために多くの意見を反映させたいとのことです。そのため、会議時間が限られる中でも、なるべく多くの方にご意見をいただきたいと考えております。ご発言は、お一人 3 分程度を目安としていただきますようお願いいたします。あまり長くなる場合、私のほうから止めさせていただく場合もありますが、ご容赦ください。

6 協議事項

(会長)

それでは協議事項に入ります。

協議事項、(1)、(2)を事務局より説明いただいた後、ご意見を伺いたいと思っております。協議事項(1)小諸市の義務教育における課題について及び(2)小諸市学校再編にかかわるこれまでの経過について事務局より説明をお願いします。

(1) 小諸市の義務教育における課題について

○小諸市における不登校の現状

(指導主事説明) 別紙 1 のとおり

○学力向上について

(指導主事説明) 別紙 2 のとおり

(2) 小諸市学校再編にかかわるこれまでの経過

(事務局説明) 別紙 3、別紙 4 のとおり

(会長)

ありがとうございました。

今、丁寧にご説明いただいたわけですが、平成 28 年から、改築等再編の検討会が進められています。数多くの視点から検討され、改築・再編の答申としてあります。

私自身もそうですが一度聞いただけでは全体のことが掴みにくく、なかなかご意見ご質問も難しいと思っておりますが、的外れでも結構ですので、今思っていることを述べていただければと思います。

また次回までに余裕がありますので資料を見ていただき、質問ご意見がありましたら次回に取り上げていただければと思います。わずかな時間ですが進めていきたいと思っております。

ご意見ご質問お願いします。

(構成員)

公共施設の問題は今ご説明があったとおりで、人が減る中で、公共サービスに対するニーズも変わってきているので、それに伴って施設を変えていかななくてはいけないという話もあります。それから運営や維持にどのくらいお金がかかるかということが今まであまり注目されていなかった。

日本は割とそういうところがあって、建てるほうはすごく熱心だけれども、建てた後はもう知らない、次にいつ建て替えるかの話ばかりしているという、とにかく壊すのが大好きな社会だったのですけども、それをやっていると、とてもじゃないけど財政的に持たないという話がここ10年ぐらい言われるようになり、何とかしないと本当に破綻してしまうという話に今なっているところです。

学校は今お話があったように施設としては一番多い公共施設です。日本の中で一番多いと言われています。作る話になると皆熱心だけれども、それをどうやって運営していこうという話になると、あまり熱心ではなかった。関心が低いというよりは、予算があまりなかったせいで、学校というのは汚い、ぼろいというのが定説みたいになってしまったけれども、それはやはり本当は良くない話なので、そこを考え直さないといけないというのが、これは建築側の話です。もう一方はやはり教育の話で、それこそ、この懇話会では、そちらのほうの主になると思いますが、今までどおりでいいのか。これはこれからいろいろ話があると思います。

もう一つは先生方の負担が大きすぎると最近言われています。これは私から口を挟むところではないですけれども、施設の管理に関しては、今でも先生方の役目ということになっているはずですが、そこまで先生方にやってもらわなくてもいいのではないか。ここは何か別の方法で、例えば市長部局の指導の先生がまとめるというスタイルがあってもいいと我々は考えていて、先生方はとにかく子どもの教育に集中するだけという環境を作ることが必要ではないかという話を今しているところです。

そういう意味で再編をして集約することは、管理の問題もここで解決していかなければいけないということになりますし、それから教育の面でメリットがいろいろあるだろうということで、やはり学校規模を維持するということが一つ大きな方向だと今考えているところです。

(会長)

ありがとうございました。今の構成員の話も参考にしながら、今までの審議会や検討会でやってきたことを蒸し返してもしょうがないと思います。ですから例えば今日の資料で言ったら、最近の小諸市学校再編基本構想のあたりからの質問だけでも結構です。今後進めていく上においては、スタートになると思います。

(構成員)

学校の問題はずいぶん前から言われていて、子どもが減るということと、学校が古くなる時にどうするかというのは、あちこちで議論になっていますが、そこで統合するという話になったときに、やっぱり困るという声必ず出てきます。その教育委員会の担当の方はそこ

で怖気づいてしまって、少しでも大きな声で反対されるとそこで止めてしまうことが国では結構ありました。

結局住民の納得が得られないから統合しないとおっしゃる市長もいます。このままでは困ると内心思いつつも、なかなか進まないというのがこれまでの状況だったのですけれども、最近の傾向を見ると、ある程度皆さんに理解していただいて、やむを得ないけど、統合を選びましたという雰囲気は少しずつ出てきているのは確かです。しかし、やはり住民の方の納得をいただけないと、無理にやってもだめなので、そういう意味でご理解をこういう場で共有していただくということが一つの目的だと私は思っています。

逆に言えばそういうご不満とか、希望など、内心ではいろいろあると思いますので、そういうことを忌憚なく聞かせていただいて、それに対してはこういう考え方があるとか、こういう対応ができるというようなことを説明いただければ、スムーズに進められると思います。

(構成員)

私は初めての参加ですので、いろいろなことが疑問に思ったり、わからないことがあるので教えていただきたいと思います。

まず最初に感じたのは、単純にいろいろな社会の事情やこれからの状況を非常にわかりやすくご説明いただいたと思っています。その中で、これから大きくなる子どもたちはすごく大変だと、これだけ聞いただけで子どもを育てていくのは厳しいと感じるくらいの感想をまず受けました。

その中で少しわからなかったことが2点あります。1点が、小中一貫を目指すという部分の中の、9年間を通した教育と、今の6年間と3年間の教育の方法の違いが、小中一貫にすることの良さが理解できなかったのも、何かの機会に教えていただければありがたいです。

もう1点が、芦原中学校区と小諸東中学校区を分けて統合することです。人数が少なくなるので、学校の数が少なくなったり統合したりというのは当然のことだと思います。やはりひとクラスで、子どもたちが少人数でというのは友達も少なくなってしまうのでというのはわかりますが、芦原中学校区と小諸東中学校区という分け方をしていると思いますが、この資料を見る限り、芦原中学校区と小諸東中学校区との差がすごくあるように思えます。10年後のシミュレーションを見ても、かなり差が出てきていて、10年後に芦原中学校区はすごく減ってしまうのに、それを見越した線引きをしなくていいのかという疑問を感じました。その2点を、今日でなくて結構ですが教えていただけるとありがたいです。

(事務局)

まず小中一貫教育を目指すところと今の違いというところですが、私は学校現場の専門ではないので説得力があるかわからないのですけれども、答申の内容等を見て、書かれていることからご説明をさせていただきます。やはり小学校6年間と中学校3年間は、実際我々もそうだと思いますが、繋がってはいるとはいえ一回区切れてしまう。考え方というか、小学校のときにはこういった子どもを育てたい、中学校のときにはこういった子どもを育てたいというようにわかれてしまう傾向があると感じます。

ただ先ほど申し上げたとおり、これから求められている能力を、段階的、継続的に育てていくためには、段階を踏んで成長していく必要があります、そのためには9年後をみんなでイメ

ージしてやっていく必要があります。小学校の先生も中学校の先生も9年後の子どもたちの姿をイメージする中で教育を行う必要がある。そういったところから小中一貫教育が必要だということになっています。

どうしても小学校のゴールは小学校卒業まで、中学校のゴールは中学校卒業までと捉えられがちな形に対して、小中一貫だと9年後になってくるといいうところではあります。

続いて、芦原中学校区と小諸東中学校区のところで、10年後以降も芦原中学校区のほうが数が減ってしまうのではないかとということですが、当然答申の中ではいろいろ検討されています。ここでは確かにあまり触れていませんが、通学する学校が、区の中で割れてしまう通学区の問題など、そういったところを総合的に考えた結果、答申の中で、芦原中学校区と小諸東中学校区に分けて考えて、かつ基本構想の中でもそのような形で行ったほうがいいのではないかと結論に至っております。

(構成員)

小中一貫がいいかどうかというのは、私は専門ではないのでわからないのですけれども、学校教育のあり方として、小学校は6年、中学校は3年というのは日本のスタイルです。ただこれは戦後決まった話で、戦前、小学校は確か4年ぐらいだった。そういう区切りの問題は我々建築の設計をする側からしても結構問題で、小学1年生と小学6年生の体格の差はものすごくあって、そういう人たちと一緒にしてもいいのかという話の一つにはあって、小学校6年、中学校3年というのは法律で決まっているから変えられないのですけれども、やはりその区切りでいいのかという議論はあることは確かです。

9年にするとその区切りの作り方がもう少しいろいろ工夫ができるのではないかと。例えば小学校低学年、高学年と中学校の三つぐらいに分けるとか、あるいは二つに分けるにしても小学4年生ぐらいの下と上で分けるとか、そのような工夫ができるのではないかとというのが一つメリットとしてあると私は思っています。ただこれは現場でいろいろお考えになる話なので、参考までということではあります。

それからもう一つ中学校区について、将来的にというお話をされていましたがけれども、私も同感で、いずれその二つをそのままずっと維持するということが難しくなり、最終的には一つになってしまうかもしれないのですけれども、そのためのステップとして、とりあえずは二つで行ったらいいと考えております。今回の再編が、一つ案ができたとしても、それで終わりではないです。さらに状況が変わっていくので、絶えずそういう議論というのはしながら、方向を見定めながら進めていく。これは多分永続的にやらなくてはならない仕事ですけれども、それが続いていくだろうと、私はそう思っています。

(構成員)

当然そのような細かいところは、初めて見た人は出てくるかと思えます。

これは6年間かけてできた基本構想が基本だと思っただかかないと、この会は進んでいかないのではないかと思えます。この構想をどうまとめるかというのがこの会の趣旨なのではないかと思えます。

またそこを一つずつ突いていくと振り出しに戻ってしまうので、限られた時間で、策定しなくてはいけないのがこの会の本質だと思います。皆さん一番気にしている、通学区を芦原中学校区と小諸東中学校区の二校で小学校ごとに分けることは、ほぼ決まっています。これ

をどのように作り上げるか、この会で練っていくことが一番必要なことではないかと私は思います。

教育についてのことは我々素人ですのでわかりませんが、まずハード面をどのようにクリアしていくか、学校の場所をどこにするか、その辺をこの会で練っていかないと、何回やっても進まないです。

その辺を皆さんお考えいただいて、基本構想に従ってどのようにするかを練っていけばいいのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。今日の協議はこれで終わりにしたいと思いますが、次回の懇話会で少し質問、意見を述べる時間とっていただきたいと思います。

(3) その他

(会長)

(3) その他に移りますが、事務局のほうでお願いします。

(事務局)

ありがとうございました。次回についてご説明します。次回は10月14日の金曜日、場所は本日と同じく第1、2会議室で同時刻になります。出席が難しい場合は大変恐縮ですが、ご連絡をいただければと思います。

よろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。

以上で本日の協議を終了といたします。スムーズな進行にご協力いただき、ありがとうございました。

7 閉会

〈進行：学校教育課長〉